

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染者が爆発的に増えています。「デルタ株」に加えて、同様あるいはそれ以上に感染力の強い「ラムダ株」も、五輪関係者を通じて日本に上陸しました。

京都でも緊急事態宣言がまたも発令されました。重症者も連日の最多更新。医療提供体制は極めて厳しい状況に陥っています。

病床の逼迫が深刻なため、政府は重症患者などを除き、自宅療養を基本とする方針を発表しました。しかし、自宅では解熱剤とオキシメーター（血液中の酸素飽和度を測る機器）を使えるぐらいで、「療養」という言葉を使うのはそもそも不適切です。

厚労省によると、8月18日時点で自宅療養者数は全国で9万6857人に急増しています。自宅で容体が急変し、死亡する事例も相次いでいます。現在自宅療養中の皆様やそのご家族は、強い不安を抱えています。

こうした中、政府は先月、初めて都内の医療機関に病床確保の要請をしました。「まだやっていたなかつた

のか」と開いた口がふさがりません。

医療体制の拡充にはまだまだやるべきことがあります。

まずは、公的病院でもっとコロナ病床を確保すべきです。厚労省所管の「国立病院機構」が運営する全国140病院の総病床数は5万超。が、コロナ患者向けはまだ約1800（約5%弱）にとどまります。田村厚労大臣はまず足元を見直すべきです。

今後、京都でも体育館など既存の施設に病床を設置したり、野戦病院型の対応も考えていく必要もあるでしょう。

他方、このような深刻な事態の中で、菅政権は先月、なんと入国者の上限を1日2000人から3500人に緩和をしています。その後、ペルーからの入国者二人に「ラムダ株」感染が発覚しています。支離滅裂。理解不能。

当たり前ですが、危機管理にはまずは危機感がなければ話になりません。